

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	財津倫子	職名	講師	学位	学位 修士(看護学)(広島大学 2005年)
----	------	----	----	----	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
・看護教育学→ ・成人看護学→	看護大学生、臨地実習適応感、アタッチメントスタイル 医療システム、退院調整、医療提供システム

研究課題
看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、実習適応感については論文をまとめて投稿した。続いてアタッチメントスタイルと実習適応感の関連について論文をまとめて投稿する予定である。 成人看護学(急性期)に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。

担当授業科目
初年次セミナーⅠ(前期:看護学科) 初年次セミナーⅡ(後期:看護学科) 救急・クリティカル看護学(前期:看護学科) 救急・クリティカル看護学演習(後期:看護学科) 成人・老年看護学演習(前期:看護学科) 成人急性期看護方法論(後期:看護学科) 成人急性期看護学実習(後期:看護学科) 看護総合実習・演習(前期・後期:看護学科) リハビリテーション看護学(前期:看護学科) 看護学(後期:栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【初年次セミナーⅠ】1年生前期</p> <p>① スタディスキルズ(聞く、調べる、読む、書く、考える)の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。</p> <p>② 毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを500字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。</p> <p>③ 学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演をしていただいた。</p> <p>④ 科目の評価視点は、DPにそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。</p> <p>⑤ 情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。</p> <p>⑥ 本科目は10名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。</p>

授業科目名【 初年次セミナーII 】1年生後期

- ① 初年次セミナー I で学修した基礎的知識・スタディスキルズ (聞く、調べる、読む、書く、考える) の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。
- ② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。
- ③ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ (聞く、考える、討論する) の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。
- ④ 評価は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。
- ⑤ 本科目は 10 名の教員で担当する科目である。初年次 I 同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員 2 名～3 名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【 救急・クリティカル看護学 】3年生前期

1. 「クリティカルケア看護の特性」「対象の理解」「生体侵襲・生体反応」「外傷患者」「熱傷患者の救急処置と検査、その初療時の看護」「呼吸・循環障害に対するアセスメントとケア」「IABP/PCPS 施行中の看護」について、解説する際、パワーポイントで図や写真や動画を用いながら、わかりやすい工夫した。
2. 昨年、レジュメの重要なポイントはカッコ抜きとし、記入させることで理解を深めようと工夫したが、学生が記入することに集中し、解説を聞き逃がす姿が多く見受けられたため、今年はカッコ抜きを取りやめた。重要なポイントは、パワーポイントのスライド上で赤字反転とし、学生がマーカーを引きながら、十分に解説も聞けるよう配慮した。

授業科目名【 救急・クリティカル看護学演習 】4年生後期

1. 危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で質疑応答ができるよう促し、理解が深まるよう努めた。
2. 認定看護師における演習においては、実際に参加し、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた。

授業科目名【 成人老年看護過程演習 】3年生前期

<講義>

1. 2年生前期で看護過程の講義を受けてはいるが、再度復習も兼ねて、看護過程の基礎から解説した。事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何かを説明し、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法についても説明する。

<看護過程>

1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、どの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。
2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明を行い、全員が理解できるよう努めた。
3. グループワークでもあり、他者との意見交換の場もつくり、グループワークでの学びも深まるよう指導した。
4. 個人ファイルも作成するため、個々にできていないところの指摘もするが、できているところも伝え、前進できるよう指導を行った。

<看護技術：JVAC ドレーン管理>

1. JVAC ドレーンの管理方法・留意点・排液方法の説明を行い、管理方法・排液方法のデモンストレーを実施する。その後、実際に学生に JVAC ドレーンの管理方法・排液方法を実践させる。その際、手技を確認し、出来ているところできていないところを伝え、理解しやすいよう指導した。

<p>2. 擬似血清排液をJVACに何度も注入し、再度接続することを繰り返せし、学生全員が排液の実践を必ず経験できるようにした。</p> <p><看護技術：周手術期の看護></p> <p>1. 術直後の観察の実際をわかりやすくデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明した。学生が、ベッド毎（4人）に別れて、技術練習を実施する際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、理解しやすいようにした。または、実際に実演し、わかりやすいよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【成人急性期看護方法論】2年生後期</p> <p>1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイントを用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。</p> <p>2. レジメの重要なポイントは赤く反転させ、学生が重要な個所を自身でチェックできるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【成人急性期看護学実習】3年生</p> <p>1. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。</p> <p>2. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようしている。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をすべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にしている。</p>
<p>授業科目名【看護総合実習・演習】4年生</p> <p>1. 総合演習においては、総合実習前に「12誘導心電図」「気管挿管の介助」「気管挿管時のチューブ固定」「心電図モニター」の装着方法と「輸液ポンプ」の使用法とその看護の演習を実施した。学生の事前学習をもとに、当日は物品準備から学生に実施させ、準備から実践そして後片付けまで体験することで、考えて動きそして学びとなる演習を心がけた。保清の技術演習に関しては、患者そして看護師を必ず体験し、学生同士で気づきを相手に伝えることで、お互いの学びとなるよう支援した。</p> <p>2. 総合実習においては、看護部との調整のみ教員が行い、その後の病棟との調整は学生に任せた。実習計画書の作成・記録用紙の検討を学生自身で進められるよう支援する。</p> <p>3. 実習終了後のレポート作成においては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、学生自身でレポートを進められるよう支援する。</p> <p>4. レポート作成終了後、パワーポイントで（10分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催する（質疑応答5分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。</p>
<p>授業科目名【リハビリテーション看護学】3年生前期</p> <p>1. 「心臓に障害のある患者のリハビリテーション」「呼吸リハビリテーション」について解説する。重要なポイントは、パワーポイントのスライド上で赤字反転とし、学生がマーカーを引きながら、十分に解説も聞けるよう配慮した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護管理学会	査読委員(2009年4月～現在に至る)	2004年12月～現在に至る
日本運動器学会（日本整形外科看護研究会より改名）		2005年6月～現在に至る
日本看護科学学会		2007年3月～現在に至る
日本看護学教育学会会員		2015年12月～現在に至る

2018年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 看護学生の認知や感情に焦点を当てた臨地実習適応感の検討	共	2019年1月 予定	日本看護学教育学会誌28巻2号 p39~45	①実習場面における看護学生の認知や感情に焦点を当てた実習適応感因子4つを抽出し、考察した。 ②財津倫子 吉村匠平 秋本慶子
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員	2009年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

4年生ゼミアドバイザー(2018年4月1日～2019年2月20日)

1. 2016年3月には1年間の年間計画を立て、4月に担当ゼミメンバーへ配布する。
2. 4月の中旬に個人カードの記載事項の確認および面接を実施する。
3. 就職活動中は、学生の履歴書の確認、推薦書の作成を行った。
4. 看護師国家試験の模試後は面接を行い、勉強方法について確認する。過去の問題集を購入していない学生には購入させ、どのように解いていくかは学生に計画を立てさせ、その計画の確認を行った。
5. 1月に入り、模試後の結果で強化学習メンバーにゼミメンバーが3名入っていたため、学生が毎日大学に来て勉強することを目的とし、問題を作成し、毎朝10時に必修問題10問のテストを実施した。

1年生ゼミアドバイザー(2018年4月1日～2019年3月31日)

1. 前期及び後期に1回ずつ全メンバーに面接を実施。
2. 保護者懇談会では、1年生の保護者の方々が情報交換できる場を設けた。その後、希望する保護者の方と面談し、質問に答えていった。
3. 休学中の学生に対し、個々の学生と約束した日付にメール送信あるいは電話連絡を行い、近況の確認を行った。メールでの質問に対しては、その都度わかりやすく返答した。

実習コーディネーター(2018年4月1日～2018年9月30日) 前任者へ11月より引き継いだ(産休・育休復帰)。

1. 4月の学年別オリエンテーションにて、実習コーディネーターとして全学年に対しオリエンテーションを実施した。
2. 4月から指導者会議の日程調整を開始し、メンバー確認、レジメ作成、メール連絡を行った。
3. 2018年度各病院の実習配置を最終確認した。
4. 8月には実習前のオリエンテーションを2回開催する(司会進行)。
5. 施設別オリエンテーションの日程調整を行い、掲示し学生へ通達する。
6. 製鉄病院・JCHO九州病院・製鉄記念八幡病院の施設別オリエンテーションの引率を行った。
7. JCHO九州病院・小倉記念病院・製鉄記念八幡病院の2019年度実習配置表を作成し、それぞれの施設と調整を行う。

教育経費予算配分委員会 (2018年4月1日～継続中)

1. 当該年度予算について
 - 1) 5月8日に、5月1日現在の学生数によって決定した確定シーリング額を会計課よりメール報告を受ける。
 - 2) 6月末までに確定予算を会計課に提出した。
 - 3) 学科内の予算執行は、実習関連以外は可能な限り11月末までに終了するよう8月の学科会で依頼した。
 - 4) 1月の「購入伺い書」提出期限の前に会計課に予算執行状況の概算を確認し、追加購入を検討した。
2. 翌年度予算について
 - 1) 2019年度の暫定シーリング額を10月上旬にメールで報告を受けた。
 - 2) 8月の学科会議で翌年度の予算計上の依頼をした。
 - 3) 提出された予算を確認して、暫定シーリング額内に収まるように調整した(調整する際は、前年度と購入物品の相違や金額を確認し、大幅に違いがある場合、予算作成者へ直接確認をおこなった。消耗品については、文具は定価の7割、医療・実験用は定価の9割がけで購入可能であるため、実質金額は、それぞ

れ×0.7、×0.9で計算しているはずであるが、そのように計算されていないものに関しては、再計算した。

4) 10月下旬までに調整し、暫定シーリング内におさまった翌年度の予算書を会計課へ提出

3. 委員会の開催について

4月・7月の2回の開催であった。